昭和28年度

業務工程報告書

鹿兒島県大島染織指導所

大岛紫微指導竹廠零

11. 沿 革

「昭和2年3月31日果全年2月3日 早立底欠島果工業試験場大島分場として創立とれ、染織血の水田率の指導改善に着手する

大東亜戰争に遭遇し、明和之の年4月戰災により、建物設備一切増失し業務停止となる

昭和スト年2月2、之宣言により北緯30度線から切離され 今年2月29日脇時北部南西諸島政庁が設置されるに当り本价 は今庁に吸收高工課繊維工業係として置かれる

昭和25年7月1日政庁告示茨1)をもって業勢を廃始する。アメリカ合家国の補助金にて建物の復旧と内部の設備を計画要請した处、「1665、ロレロ余円が下附され、昭和25年10月着手、昭和26年5月延262年の事勢所工場が竣工し本まの研究指導を行うことになった。

昭和25年11月経島組織法により奄美拜馬大島紫織指導所となる

昭和スケ年3月31日群島政府解散に伴い琉球政府に統合な北島工局解庁となり、昭和28年4月1日機構改革により経済局解庁となる。

・18日28年12月25日日本復帰により大島支庁に吸收され 現在に至る

			• ≯ ¥		(2)
工場		2	140	木追平家建	反査
永色》徒室		1	13	4	
波 廊 下		3	37	トダン蚤	
名 库 個 5年		. 1	12	ブロック建	
便竹	,	I	4	木造平家建	反革
<u> </u>	500	9	262		

(4) 歷代阶長

14 次	注 次	在	践	节 身	
- 大一表	小林 三即		和之。子	至昭和!	5. 1.
り、二十			和5. Z	主點和	12.8
1 三代	幸丽 一粒	L	和一之. 8	主机和	13.2
र हा र	田中	白船	to 1 3. 2		14.11
沙道:	發尾 辛春	自罪	fo 4.]	圣昭 和	21.6
7大代	直跨 蹇吉		わわらし	現在上	<u>ት ኤ</u>

(5) 55 1

55	Ŕ												
1	ڔ	4	残名	ラオ	多分章	蔟		緻	3	Ħ	1		
	37		技师2	5 5	T.E.	PEFO		2.	4				
橋	ΡÃ	विर्धा	主事3	庆梦	信务 ?	1	Z	5.	7			-	
꼰	3	5-27	4		<u>۰</u> *	4	2	Š.	5				
袁	ķ	主	技师3	核	公却.	5		Ŷ	4	-			
奥	و بن	大大	4	B.	至全	4	*	5.	7	~			
मि	ą	代馮	4.	**	色型	. "	L	L	Ī				
等	11] 3		5	5K \$	当	8	2	Ŧ	- 6				
杉	7']	圣德	4	原为	147	1	Z	7	3				_
<u> </u>	' Œ		准計	E	拿 停 。	5		6	ç		-	,	
沛	Ph	な次	4	7	色绿。	٠,۶	之	8	Ь				
岁	FD.	文司	5	楼	致经.	. 3	2	L	8				
T		青隆	4	*/-	色绦	4		5_	12				
[1]	调大	原司	助于	JQ.	料信、		ス	7	4				
Ŧ		王子	4	栈	铁纺	5	2	5	11			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
(±)	為	友子	3		۶	4.	ス	7	10			- ',	
不	133	鲍子	3		方线	4	Z	3	10				
<u>次</u>	a	哲子	4	核	致了法	4	_ ≥	6	3				
		L1	6		4	,	. <u></u>	b	. 3				
		英村	1	柒 [13.	4	⋧	Ь	3		•		
注	田	= है∳	3		4	-4	2	5	12				
2		智等	~	座	S. 53、	. 3*	2	6	11				
5F	宁,	エチ	錦人	专	分	;	`>		1				
	<u></u> አታነ		4	洗	· 18.	- ' :		8	_7_				
स्	逕.	一後	1,	绞	7	, ,	2	7	4	<u> </u>	+	<u></u> አ 4 ኢ	•
											2		

昭和之8 与方業替根要 (静含含 系的等) 主要な行争 (1) 昭和28.4.10、芳义淘信智生义衍式举行 琉球民政府長官アグデン平将巡視に対大島畑の 座が会もなす 鹿児島果総努却長後帰調查っためまめ 第四四聚鐵技能請習 会前請式举行 6. 1 第一回係習生修了式孝行 ブラムゥー薩塚首席民政府長市禊寮 奄美大島は茶復経のグレス声明の1 郡氏太会 水参加 ラチオ報道社 読売新闻社記者事所し 大島油 5. 22. に創する声に録る 自治疗の調查国事所 7:18 **美四回請習生。修了式参行** 11-28 可李银福力投资长条约中军校案第三十五人次条 12,25 野和刘. 之之 増取避棄請柳年竹文日内にわたり周京講習会 果有受計課より某作事努請習合別確 3 5 之 15 京都的节景、深京两户压集价心 ₹. 黑人争谋; 5 东竹头净鱼合争防锅冒会 3.10

县产至了翻跨断上经市东阶之期益为?

逼责省企業产工,细於納班一行年所調查

(2) 文書收餐件数 收受件额 **桑茂纬数**

3.11

3. ≥1

23019 20639

(3) 視察参觀事訪者數 580人 38 Ø 一 液 · 194 7人

(4) 技術者養成數

. (ፈን 结智生.

講習生 (D)

研究生 (v,v)

≯5人

しるの人 13人

现在受請中,若

(7) 糊没塔利用首件 240线 1 PO B

								\ , , -	•
(6)	分类图	数調			内.	7	足	•	
	区分	买 内	學.外.	3	技術指導	研究調查	そりた		
	技师	15	2	. ' 1 '7	٩	ь	2	·	
	主·爷	. · ک		2		2	. *		l
	% 共	5		5	. 5				
٠.	助手	1).		1	ス	,	l
	\$ 7	23	ス	25	14	Ç.	之		ŀ.

(9) 蘇入蘇出予節

一、一、一、一、一、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二						
₹£1-	ŢΞI	自昭和 28.	7. 1	自昭和之品	12.25	計 (決制
4.1	151	主昭和 28.	12. 24	主り スタ	3. 3]	· * (~1)
		予等 %	決等級	予系級》	关系级	1987.294
争 数	米十	801.750	647.379		39.915	136.373
生产物	きまくらくさ `	193.200	110.813		25.560	χ .
3+		-994,950	758.192	ÿ	65.475	1.123.667

	浅	及					•
	斧斗	[]	自昭和25.	7. 1	自り和は至り	8 12.25	計 (沒等)
ŀ			L	汉亨級		決等級	
	人. 3	t 贯	1724.280	1.635,698		1255.497	2891.195
	常等	2 赏	1.018.800	1.003.569		362,944	1.366.5.13
	à	•	2743.080	2639.267		1.618.441	4.257.703

图察片剧于《予烫 (四 条 纪) 秾汽

近京細の消費やである日本の土の経管不況と政府の耐気生活 政第五二卷天大数2世回旗停口许点,路利太2切接口了! 少然的比較自動業界的方法成立、不够面立相多な打凝的爱け たかまるのストンクを京な地流不能又は微機を減少するのようななない。 東京電流不能又は微機を減少するのよか、最近又展児島銀行揃うによる、金崎の追が出来たのであるが、関近又展児島銀行揃して

(1) 查面图案指导

※)本上の主要市覧地を視察して流行家党も直接調查研究できた。 ないので、関案案線関係の参考音を取号せて、それに基づい て消質地の趣好に合か柄を夢呈作製配をした。 (D) 月刊発行のサングルにより、第二新規な物と生在コスト程 地はませいのき、

滅方法に審意して指導した

17) ナー月及び三月に地方町村に労港して 各業者と現状の状

スや粉手の見解について 黎談に巡回指導を行った。 太神の(舒教教が中切事例)を招いて、即じの国産学級南係業 者の変更国条指等請答会を行った

(2) 位智生 研究生。秦成

国家位置生として昭和28年4月五元を入所ませ、国家に関す る是發理論及び実習指導を施し、本年三月未終了し、一名は 細組合国素部、一名は京都順水代、国等勉学に決定した。尚 十月に研究生として二名入所させたが、身体が弱かったため 正三な見程で退所した

(3)角条配発に当っては細葉者から着色 加工党の軽減 消貨地の流行、柄行きの比率同一致の桁が多号に偏忽すれば南品価値が低下する子その他権人の質内があるのでな事内面につい て適切な応答をなし指導した (4) 手向参観者数

(5) 车内调聚配布数是及杨锭别%

スタ年3月までの調製と配布枚数 2874967 3 和 55 1 1 杨 6 Z 4 八中桥 杯

(9)	配布	四來口	よる	泥染	7 派	遊楽	クナで	茎			
	3/2	3')	沢	源	李、	泥.	<u>.</u>	铁	38	5	
ļ	火	神		5	ن.		5	0			
	\ \	が		7	ij		ં	(ر	-		
į	ý. s	中和		3	Ø		<u> え</u>	0.	'		
	3);	杨		?	5		1	5.			
				1.00					1		-

染色に関する事質 (楽色部)

(1) 大島御染色用のテーチネ煎魚におけるアルルッ分の適電

(1) 目的

デーチ本染色はテーチ本も煎岩する際のアルカリ会及 び庶岩時間等によって、銅絲への塗着及の色相、坚牢な 遂のに染上げ量にたがあり就いてはせたコストロットげ にも関係があるので、こかが試験を行か

n 方法 n 法

テーチネ100万に対する暫達灰30反も入れ10時間、 煎出すこの液、アルカリ度はPH試験紙PRL8 窓なり度

(B) 法 デーチ末100斤に対し暫選及火の反も入れ10時間 煎发するこの液のアルカリカはPH試験紙PR 6.6 窓なりな

(d) 法テーチ本100かに対し智達灰10名を入れ10時内 煎労するこの液のアルカッカはPH試験紙B下 B6.4 窓度1.1 み

(の) 法 と法によって煎労した液に酢酸の2%を加へる

この液のアルカリなはPH試験紙BFB62か 変え しる

上記り各点、出液を下記工程にて染色する

可橡物 大多納締 (><)</p> (=)

染色工程 断 居岛野 回 回 医牙野 回 回为野 区口面蒙

新日日る関新日日る夏新日日る多新日日る

13.5 137 13/ 新月二

|石刻初/19| 而刻新小小 福斯山

回回题 脚冰潭

際尾訓新に回尾訓 新い口格訓新い口尾訓 新いつ

医对侧心 随回 网 医三侧 |氷|

绮芳兰訳工程,略字説明

新二: テーチ末蔵を液の新液ニテ可染物をねり込み染色 石二: 清水にて石灰を溶解して可染物に石灰の化合、数 は万楽物に対する石灰の骨を示す。

乾燥

素液の無液に浸漬すること

[] : 楽液にて意味10分向すること

面 ニ 泥土にて鉄化すること

泳! =: 水洗いすること

[[6] :に 淡霞も 三回染色すること

双下テーチ本染色の工程操作法をこの際なで表すことにする

結果 (t)

A法の楽液はアルカリ分が強いため染着が悪るく良好ではな、 B法、染液はアルカリ分が通量で染着れ良好な染色が得られた さ法は B法の染色に同じ

ョ法の条液は弱酸性であるため染着がよく地色は良好なるり 縛あしが白くなり適と、よい結果が得られなかった 以上試験のかくテーチ末意労におけるアルカックはテーケ 木100斤に対し暫達庆20 奴経なが良好である。然し挙試 豫は締結果の易令であるので地話に対いても行か少零がら 更に研究を要するので "次年なに於いても継続実施 (2) テーケ本染色工程。規則試験

(ロ) 煎出法 テーチ末100年に対し曹選原之の夕を入れ10時周、蔵公す (い) 可検物 大島納締

(二) 空色工程 新尼河海朝野河河海朝野河河海朝野河河海南野河河海南州

阿阿

|新國新四日福 | 新日日 | 福勒四日福斯四日乾田水

新四多层的可多层新四多层新四多层新四多层新四多层的四水层层新

|新国国水配|(染液绿华的人回派付三回)
(N) 结果

地色の溶液及び舒色目も良好なな染色が得りれた それで試験のとおり投来の工程染液維な五十四と派字四日が対し、深海四八四派付三四で染み得られ約五名の工程が決定をなるといなる 然に舒楽をは舒き回いなる ではないないが相当の困難が予想される 尚を的いも試験を要するので更に研究を継続する

(1) 可核物 大島紬地絲

新福新山山 多碳新山山 多碳新山山 多碳新山山

新對四水較

歷發所可以逐漸可可感輕回必

(方) 結果 地色の混な及び色澤手觸をから坚牢なも良好なる染色が得ら ・れ然も、増をは3割し歩で良好である

れ然も、間ではけめるテで良好である 以上試験のとおり、役手の染色工程より染液緑作が7月派付一面が節減し約9%の工程が節減することになる

一戸か節減し約ク%の工程が節減することになる(3) ラーチ末の生の物と乾燥物との対照染色試験

(1) 月 時ラーテ木は代採後輸送その他作業の都合业から時日を経来させることがあるので、これによる生のものとの対照をする

(ロ) 方法 テーチ末100年のうち 50年を煎り 染色を行い残りの50年 桜を35日別放置乾燥して染色をなす (ロ) 了季物 銅 鉄

(二) 染色之程

图 1010 图

图题的证明图图

密码和10126到1112超

医隐勒门 网络野山 中野回区

题 阿利瑟斯阿利亚

(中) 語 ま またまで手觸の色澤並いた石酸及い作に対する 坚牢度は大差はないか 乾燥テーチネで染色したものはやいろい又生のものよりま到4部も緑が増置しているため 摩擦にし 弱く又製品にも悪るい影響を共えることになる

(4) 季節別のテーチ末来色試験

(イ) 日 约 テーチ本及び泥土は李節によって銅絲え、染着が違ふりでこ の試験を行う

(中) 染色年月列

8P 10 P 29 7 2 P

的 可核物 網鈴

(=) 染色工程

シートルトで振竹楽 断断 題

新岛一新100万多新10万克

例33新日、1、15新州、1、1、1乾1

思虑新, , , , 局新, , , , , 睦田水

國回 國前河河南

(小) 結果

8月に染色したもの 染着色相坚牢なも良好 増置国際 10月に染色したもの 染着色相坚牢なも良好増置四割六半2月に染色したもの 染着や、不良色相坚牢なもや、不良 増置四割

以上の試験によって、8月10月は季節からしてテーケ木が成熟して店り煎出液のダンニン色相が濃厚であるため 注着がよく、又派土も決着がよいので好結果が得られる のである

2月は季やからしてテーケネの煎出液も濃なでなく流生の飲分の染着も余りなくないのでテーチネの煎出液を浸水を 厚に取り石灰も多い回に使用しタンニン色相及の派上鉄 今の染着をよっなければならない 尚この試験を月別に たまれずなうない。

は、テーチ末及び盤併币染色試験

(イ) 目 的 テーチ本染色に於ける藍染緑甲による染着及が坚牢なの対照及がコスト面等の染色試験を行う

的 可核物 絹絲

的分法

d)法 盛下染をせず白絲のま、テーチ末染色

(B)法 自然を決區報監液に三四線物にた後テーチ木帝色を行う。

(c)法 白絲をテーテ本染液にてニエー風染色し後淡塵染 (塩液にて3回緑郷)をなしその後更にテーチ本染色 を行う

(E)· (A)法《染色工程

熱染液、 C振行生染色 所列(配)

風扇新川川湖新川川原

医属新沙沙原新沙沙原

然成了了100万多新。101季回水

然處所1/1/局新山山區包里图

(本) 图法《茶色上程 资华 新《《乾

新多的新少少多数新少少少

数福新/// 局新//

歷局新(1)局新(1)库引

热局新少少少局新少少少庭国水

[義] 同[憲] 阿河回水町

い く 法の染色工程 熱振分発液にて染色 | 新区配 | 新図 | 新図 | 区 | 新図 | 原配

数扇斯//原鹬///原

医肠动物 1010肠粉 1010 乾 配取

医肠断心 心肠新沙心 乾田水

[秦] 四水[秦] 新[[四水] 起]

(ト)結果 A)法は色澤子觸及の坚牢なも旁値であるか増量がや、多く四割学費した

(日)法は色澤子、觸及坚牢なも優秀であり増量も少い三割っ増をである。

(b) その他のテーナ本染色試験 の海岸線にあるテーナ本と深山にあるテーチ本との対照染色試験 色試験 (ロ)テーチ本の小枝葉根幹別の対照染色試験

(7) 代用条料の条色試験

(4) 目的

当地方に在する適当な植物条料を研出するためにこの試験を行か

(D) 植物名 福本 (A) 煎出法 福本へ幹 | 200 名に曹遺及之女を入れる 時間恵出する

(B) 可染物 · 箱铃

四)クローム印禁による媒染法 写染物に対しクローム 卵礬30%煮浄液にて30分媒染し後水洗染色を行ふ |染色法は(一)法に同じ

(五) 災土の飲水合による媒染法 可染物に対し福本の恋 宏液の子の経液に水酸酸2%を加え煮沸4の分の染色後泥土にて飲火分をなす

(カ) 藍染との併用染色試験 可染物に対し水子の位 その水に対しる場合の理想のる名の族酸ソーダを加へた常温 液にで浸渍すること六時期その後間く絞りのユルの硅酸ソーダ液中に15分向处理し水洗染色を行か、染色法は可染 物に対し福木の煎出液子の络に水醋酸2%を加入煮料40 分行い染色し水洗い淡藍染之四樂作染色する

(四) 結 東

10 111						
媒染及び染色法種別	色相	色澤	唐季試別	說信燈引	酸試驗	口之法院
アル計媒学後染色したろもつ	山吹色	良好	设分	良约	良好	主动线中
クローム母素後染色したるもの	かりや	. 4	4	4	4	4
鉄桿茅袋瓷色したらもの	焦茶色	:	ç	4	5	s
20-4相響で好学後染色はあり	金茶	ş	:	s	s	
泥土にて飲化合した幼の	為不	4	;	ś	٠ ،	٥
蓋と 舒 用したるもの	窟色	4	, .		4	0.0

以上試験したとおりよい結果が得られたので今後尚試験研究と新規繳物を研究して35く

49 植物名 推神

A) 煎出法 推柳。幹50斤に対し暫違反8分を入れ10 時间煎出す

四 可物 绿絲

(d) 紫色法及び主程 熱学液にて振行染色 | 新り関

阿姆斯 101/2010 101/2

新城新山山江城新山山山縣

歷場新口小房新了少時

阿里里的小沙陵园的小沙陵园形

國水岡可以隔 医到水回 医到

(D) 結果 煎出液はテーチネと大差はない 深着はや・悪ないが テーチネッパ用品としては良好であり 坚牢をもよい ので尚研究をする予定である

(三) 植物名 紅 竅

(A) 煎労法 紅露の乾燥物子。0 反尼子時間煎发する

(B) 可染物 褐 絲

(d) 染色法及以工程· (V),推翻,染色工程と同方法

四) 結果

煎、な液はテーケ木と大差ないが染着はや、更い然1テ 一ケ木代用としては良好である

め 植物名 モガシ

(A) 煎労法 モガシの幹ちの斤に対し曹違灰8象を入 ・ か1の時間煎労する

中罗黎物 鍋 絲

(d) 紫色法及工程 (V)《推榊《紫色工程》同方法

(D) 結果 煎炭液は濃厚ではないかタンニン分が多く鉄分り染 着かよくテーチ末に劣らない染色が得られた。 尚學際 石蔵酸にも坚牢である

○ 植物名 モクタチバナ

(A) 煎发法 モクシェバナッ幹50年に対し雷遠及る タモ入れ10時初煎出す

(B) 可染物 語 絲

(1) 染色法及以工程 (1)《椎柳》染色工程《同法

(D) 結 果 テーチネの代用にはならない 化染に替るネズミ色か 得られた 坚牢なも摩擦には強いが洗濯目光には弱い

(8) モッタチバナの煎、お液による綺染色試験

(1) 目的

いのモシタケバナ代用染料染色試験の結果により これを使用し地色をネズミ色に緑を向にして変微物を染色するためにこの試験を行か

(P) 煎労法 モクタケバナの幹50年に対し智達灰8点を入れ10時向煎出す

(7) 可核物 大島紬絲

(m)染色法及工程 熱染液にて振対染 <u>新</u>]<u>列乾</u>

新路粉的人多路的人

感场新了了病影新了! 摩

感感的心愿的心图

[整]新。[《图]新。[《]整田水鸭

り結果 染着色澤もよく しかも地色は化学染料に劣らないネズミ色が染め得られ続はわく 優秀な新染が得られた 尚この試験 は続行する予定

(9) 妾嬖染によるモクタチバナの煎发液染色試験

モクタチバナを使用し地色をネズミ色にし紙を向に変機物を 筆色する

四、可接的 大岛納納

可檢物の3の結モクタチバト煎炭液にて煮沸3の分米色し後水洗硫酸鉄1の名温液にて1の分別外班下

(中) 結、来 ・地色はより泥土の鉄化合より色澤は良好であるが、綺の中ま ・で浸透したため、好給果は得られなかった

(D) 泥藍大島紬染色に於ける化染による綺部分染の榛染試験 (d) 自 60

) 目 69 化学祭料によって部分染後その部分と枯りやり部分を淡藍茶する際に前の化学が淡藍色に活染し班楽となるので、これを防止するため行う

四 可染物 大島納納

始めら部分解した締の部分を糊落じ水洗後乾燥する。次に下記案が及び務案制にて部分解した外に刷をを以って捺案し発 造の後巻新でする分蒸して水洗にし乾燥する。

染料及の栓染剤 クリソフェニン G×

クリソフェニン G× 1.5 8 アンドフワストブラウンR× 0.48

ペンゾレント 3 B 0.36 コンニヤク糊 10 8 砂 26 水 50 8

- (三) 結 果 切分染せる化学染料が淡藍染に沙楽せず班染を防止する ことができ 好結果を得た
- (1) 睽睽建した蓝に淡蓝色を染める際の斑染防止試験

派盛大島細用の淡藍染色は排染的になりやすいのでこれを防止するため試験を行か この試験は化学部に於いて 実験の結果良好な成績を得たので量的に実用化を目的と して行った

(か) 方法

マプロカコンク温液外理法マプロカコンク 58. 3%

との液で絹絲を繰作浸渍20分後に絞りとけ淡藍染色を 行か

(12) 蓝建具公字色試驗

大島紬染色用の薬は四国より移入しているのでこれを島内に於いて製産し自給自足と図るためこの試験を行う。 の 琉球區(大島に産するもの)遊建及の染色試験

る灰 1合 メリケン粉 1合(熱液で溶かして加え)週内継続する) 藍建設30日日に院酵売分となり、この液で綺絲をも用線作 楽色する

(二) 結 果 ・染着が少々悪るく黒味を帯びた虚色となり色澤が良くない ・特長としては否系が高いこと、尚今後も研究する予定 B) 島内は栽培した製盤を茶に製造したものによる監建試験

<u>高</u>建活 奈<u>葛</u> 4 覧 人達豊 240点(熱液で溶かしてかか) 芳性ソーグ 200点 石灰 5合

メッケン粉 2.5 合 (熱液で溶かしてかえる) 藍建した翌日より1週前メッケン粉25合を熱液で溶かし たもっを加えて醗酵させる酸階度は良好で多の向に酸酵充 分となったって染色を行った (生) 結果

禁萄色澤東が曜年方も四国より移入した路(茶)と殆んじた の方い染色が得られた 今後これを製造研究して島内へ自給自足を図るようしたい

(13) 蓋の醗酵建すのアルカリ分及び醗酵な判別試験

切 目 的 現在行われている意建及が使用中のアルカの分益がに酸酵 度等を含の味によって判別しているのでこれを試験紙によって判別できなよう試験をした

(P) 方 法 アエイルアダレン紙と整数に浸し水分を吸取つた試験紙に よって判別する

(4) 綿絲絲のナフトール染料染色試験

(r)

```
(d)
    月的
   綿織物染色を愚染に行るようナフトール染料にて染む
    可染物
        綿絲絲
 (الم)
 (11)
                  ナットールAS-BC
       - 万条物に対いし
                  苛性ソーダ
    ×記薬品を液量3の倍の内少重を加えて良く練り
   たる後、残液を加えてヨの強となり、この液にてま
    分向下请す
   题色
          可染物に対し
   上の染料も溶解し下漬した終を繰り入れ冷液で 15
内類色しその後次ケソーピングを行か
    ソーピング法
              る絃
              炭酸ソーダ
                        0. 5 %
                        305%
    これも温液にて溶解後15分別ソーピングし水洗鞋
    する
 (=)
   5±
    坚牢なは藍染より強いが色澤は藍染より少しある
    濃藍染した結絲の硫化染料の上掛染色試験
(15)
 (4)
    蓝染は摩擦に弱いためこれも増進をせるためこの試
    可染物
 (v)
          大島細語:
 (1)
     <u>塩色を稍々淡目に染色した緑も下の方法によって</u>
     ンドカーボン
    硫化ソー
```

上の液で煮沸30分染色しその後年等に絞り止て酸6 させた後水洗いし次のソービングを行か

狡

(19) る蔵 1 % 炭酸 ソーダ 0, 5 % 子口经 **エー過数で30分ソーピングの後水洗乾燥す** 聖事度は稍々強く、 色澤も湯藍染を大たない 柞蚕絲の葉色試験 松養緑を使事し意大島紬を研究するため染色試験を行か 校査終の世話 可校物 ペングレソト 強酸絲 エの南で意識了の分字色し承洗整理す 色澤真坚存なも良好である 色和はエンテ色 スプラノールサイヤニンG **(B)** 3 % 土の教で意味する分染色しその後水洗、乾燥する 結 事 無明な古色が染め得られ又里年者も良好であ 7, w) ファーム甲第 液量 上の海で煮沸る。分媒染、水洗後次の染色を行外 スプラノールサイヤニンウ 上の液で煮沸るの分率色し水洗、乾燥す すむけれども坚牢をは **煮粕は(1)法よりやゝく** ナットールAS - B さ て 下境 き相は茶色となり、坚 勝建した塩の次の素を行う。 であるまるく、色澤も良 色澤も良行ではない たものは良い紫色が得られ又坚牢な も好果である

大富物併力染色坚卑分試験

(=)

(1)

(D)

ab

(1) 矫智分楽に金茶色を染色した後、熱ツーピングをなし エンデ色も楽色したところ、地色があく変化したので この京田試験となす 可核物 どの染色によって変色した紆線(S日に染 (v) 色したもの) (Y) 方 淰 (A) 摩擦試験器により試験を行ふ 熱リーピングの後 2%階酸液にエンヂ色を染色 地色が所のあ味を帯びる (c) 浅程試験 地色が所々淡く茶味を夢びる 試驗 結果 地色が淡く茶味を帯がる 以上試験のとおり、この姿色は染色工程中の石灰使用が く、それにテーチネが季節からして成熟してもらまり シェン色素がりないのだ対いし泥土鉄分の染着が良く廊 者の結合が不えかなため、不坚牢となったものであるこの結果那内染色業者にこの英と示適し注意を捉かした 大多细索料絲。脆弱試驗 直接学料のクリソフエニンで染色した緑が脈化する天 かあるので気肉試験を行う 可捻钓 (D) 約 61 下記の入権を別のに酸性染料染流で染色する 可機物に対し クリソフェニン 0.5% (B) % λ % 2 % w) 5 5 % 2% (G)(F) クリソフエニ **ኣ**% 4-) 0.5% **ኢ** % 1% (G) . 2% 4% 1 % SHO 尚この八種も各々半分の緑を淡糊付けし転繰す

羽在のところでは変化は認られないので降日の経過によ

る脆化を調査研究中である

		(えけ
(19)	常者の作物による試験及作業基況	
(Y)	- (花 左 左 see 24 的现在分词	、 孫/ ②
· (v)	- 64 x 表 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	1 /3
(4)	東喜。窓別試験 連門の坚牢を試験	Z.
(=)	新村の皇室を試験 81: \	
(cf:)	- 人名班に附んしたインノ教です。 / ずりごと	
.t \)	- 大島紬に附着した末包抜き 100 (それ) げ	
(1)	舒,自己却分上赤色为污染	
	したものうき消し ヨッ /3 3	
(4)	人可以是那个好些	
(9)	天易細った上げ 37 /	•
(Z)	更美法試驗	
(JL)	天多細化等染料染色球颗	
	5 1 2 4 1 2 3 2 2 1 7 2 1 3	
(7)	· 淡蓝的,淡蓝染色琼縠 200534 久	
	\$ 2 3 st.	
り	更生を限の染色 マラチの タラチの タ	•
(//)	精練 2.6件 3.2200 秋	
(20)	所内機織部試験用としての染色作業状況	
(20) (1)	オクダイ地用の結結結準色	1.0600
(A)	オクタイ地甲の誘誘行染色 *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	320女
(23)	正蓝及泥蓝细。茅色	2.470友
	海後的の仕上げ 1件	286数
(1)	テーチ本染色	4.55 久
Olo	7 7 7 7 7 6	7, 2 3 ~
(21)	赞疑而答	
	テーケを染色について	
	1 + 16 25 6 70 75 12 C 7 25 6 NC (V is 15 C) 7	6 3 4
45)	ニーチ末次経知会に湯隆した化学の勝色法につ	· · · · · · · · · · · · · · ·
1-1	1年に対し、人民学科の二角語のコロア	314
(- -).	一番 生きたっ いて	3 / 1 3 / 1
(A)	テーチ本染師部分に浸透した化学の脱色法について 一手本染師部の二色染の一色流ので 一番美活ので て 一番 まっかて 一番 まっかん まっかん まっかん まっかん まっかん まっかん まっかん まっかん	باد و
(3)	1 1 de la constante de la cons	- f .
(>>)	来色標本の作成 次行を探すりなかしなながありに付けに借うて	
1441	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	些夫,杂天

(1) 流行色標本を作成し作額染色、炭付けに備えて業者、参考に供す 流行色の見本帖を作成し業者に配布す 染色技術について松学短のに調査

テーチ本幹色業者が地方に散在してたり。 改良といていないので、これが調査指導を行か 南化学染料染色工场力染料の檢查及心染色法流行の打 準もなり 調查指導地 那内しケ市町村

(24)な習生 の養成 染色技術の量及並のに現業者の後継者養成目的で許さ 学の基礎教育と共に実地に作業をとせて技術を修得さ

表成人負 4名

化学分析后囟寸的争变(化学部)

分析試験. (1)

テーナネ中ゥタンニン分析試験(前4をより(継続試験) 目 约 大島紬の染色法は媒染々法によるタンニンと鉄塩の6

合いよって発色するのであるか、その染色添け複雑。 あり独特の方法であるか死子的にあまり研究とれて、 これを化学的に研究するため まずタンニン・ 合有量の分析試験を行ぶ

一チ末30KSE水160年で8時期庶分した液 ついて試験する

め 計験法

過マンガン酸カりによる酸化法によって容量分析も多 試料中にはタンニン以外にも酸化される有機物! 含むので全試料に作用する過マンガン酸カルの意とど める これにはゼラチン等を使用してダンニンを沈然 させて行かその前後の差がタンニンと酸化とせるので 要する電となる

(四) 試驗結果 上記方法で抽出をれたタンニンはのもりとなくなる3つて抽出をルたタンニンは参科に対して等の×100=23

ほこの試験は生育場所与を部分(根幹枝葉)等について継ば して試験を行ふ

水質試驗 Ē

染色及び精練に及ばす水の影響は大きくその中に含ま

れている物質を知ることは大事なことである。 赤た当所の 放備は充金でないが早息にこの試験を行か少要があるので でもね範圍で行か

中 法 料

本价内井户水

ポンプ水 (=)

- 字校村生勝崇色工場用水 (三)
- 宇教村田檢染色工場用水 **((団)**)

% 法

- 一) 硬度(全硬度,一時硬度、水久硬度) る歯液による方法、塩化バッウムで標準液を作成しこれ を用いて標準の輸換を調製してフラーフ法により硬度を 試験する
- 塩化物炭性比色試驗(稀酸銀溶液使用)
- (三) 硫酸塩食性比色試験(塩化バリウム液使用)
- 四) 鉄堰 定性比色試驗(黄血堰溶液使用)

(一) 本阶	内の井	户水、	· -			•	
項目	全硬度	一片硬度	永久硬度	盛化物	硫酸塩	敍	塩
各國各意地	13.500	· •	9.000	白汤	白滴	ট	色
判交	3.07度	1.17度	190度	少量	微量	一	是
(三) 本价	内のか	ンプツイ			•		
TO TO	即全硬	度 一時硬	度永久破			鉄	t _{io}
石蓝奈泰是及	E 130	ćė	9.50	d b i	尚白汤	19	É
判交	2.94	x 0.91%	\$· 203	かり	是微着	少	F
(三) 阜核	村生勝	アンとエ	場 用水		-	•,	

1	1	川全破な	一時破み	水久硬な	塩化物	硫酸塩	会	15
1	る絃客を取る	· 14.3 ec	Ü	9. 5 ec	白汤	句湯	*2	É
	判 茂	3.27%	トスチネ	スのうか	少老	微 是	ツ	F

年校村田松店田工場 用水

石酸写真及色 13.0 cc - 9.5 cc 白 % 白	蜀青	色
判 友 スタ4な 0.9 か 2.0 3 な 少 電 微	をレグ	形

以上の試験はスタキなも引続き合物色工場及撚絲工場のついて試験を行か

藍染カインデゴ合析試験

(A) D

藍染の天易細語吸盛人になってきた状態の品質に種々優劣 かちるので葉蓝のインダゴタを化学的に分析するためにこ

- の試験を行か
- 由 該料 至蓝
- (の) 試験法
 - (つ)過マンガン酸カリによる酸化滴交法 豊は溶硫酸によって水に可略性のインデゴサルフオ ン酸になるこれを水洗して過マンガン酸カリを以つ て酸化滴戻する、滴定の終無は可溶性の蓋が全部イ サテンに変化せられた臭即ち溶液が淡黄色に変する 臭となる。
 - (三)ハイドマナルフワイトによる還元秤電法 1%の硫酸で30分割煮脚し圧接してその残盗をハイドロサルフワイト溶液とる灰或は稀落苛性ソーグ と加えて温めるとインデゴチンは還元されて黄褐色。 の溶液となる。これを沪過し微酸性となり、空泉に 触れませると、インデゴチンは分離する
- (四) 試 稔

 - (三) 選えると、 一試料した。 ないないないでする。 かれては、 でするでする。 でするでする。 でするでする。 というでする。 というでする。 というでする。 というでする。 で変えている。 でする。 でする。
- 事) 造っ分析も結構して分析を行い大島産の流球監察 選手について、取期生育場所等の相違による含有電
- (2) 研 先 試 験 (4) 帽子編用アグン菜の精練漂白について
 - り 日、約 アグン専利用の手工藝品は以前より生産をしていたか 纺子化学的な加工はなれず、その質が粗悪なために自

然に衰微した。京科が墨窓に名りその鐵维も相当に残いりで、加工人理も研究すれば工業化で急得力と思う 各員奄美地方を経済課に於いてアグン業帽子編の講習 会員行うに当ってその漂白法の体験かあったのでこの 試験を行ふ

- (B) 試料 アダン葉を適当っ大きさい裂いたもっ
 - 日 精 練 工業用リーグ反馈酸ソーグ)を使用する 濃度 ① 0.5% ② 5% ③ 10%

晒粉の濃な トタドル 1分 2分 3分 漂白時間 1時間 ─ 8時扇

- 四 接处理 5%硫酸に約一時期浸渍してよく水洗し乾燥する
- 四 結果判定
 - (*)内質もつけたま>使用するものは中之間位に製べた 物がよい、精練漂白もするにも丁か手頭である 精練はの5%の炭酸ソーダで約3時間煮沸ら水流の 致直に響白する漂白はトワドル之な位の晒粉が適当 で呼叫は約る時間でよいが適当に漂向され た時に取りだして充分水洗いし酸処理を行う酸は稀 硫酸を使用し約1時間処理し充分水洗いする

(A)· 目的

宇松村で輸出甲にバショウでスリンパを介っているか 製品が粗重なため、自品価値が延く これの加工法を研 突して質し改良したら、自品価値リエリー豊富な京料を 利用して工業化出来る、界…この試験を行か

ゆ 該 ,料

(*)宇禄な环空より持参した乾燥バショウも適当の中に 裂いたもの

四との参料で製作したスカツパ

点 飨 结 的

一,表沸停间 30分 1時間 2時期

(三)漂 自 ① 3%追酸化水素水

②重硫酸がス

①晒粉 トワドルスな

(三)後处理 微弱酸性の水中に5時間浸渍して水洗しる %乳酸に5時間浸渍して上げ乾燥する。

(D) 结 张

(リ) 柞 奎 絲の精練漂白の試験

A) 目的

現在大島紬のコストが高いとなわれているか これは 手工芸品的織物であるし殆どの生産質は労敵であるか このコスト切り下げの一方法として 現在の細以外に 安価な象料利用の変り大島紬生産を助長する目的をも って本試験を行った

(B) 試料

京料卸り於いて機能した経験及び跨線のついて試験す (d) 実施内を

一緒簿

①10%炭酸ソータを30なり場別に溶かし、この中に試料を入れて繰返しなから45合前に四十五分になるようにする、次に25%炭酸ソーダ液に40

るで終も入れ、ヨロ分別に少かるになるように溢かる調節し、そのまっで一時期精練する

○ 15%の炭酸ソーグ液に50一よのなで30分間線返し下り精練し次にる鹼の3%液に95なで45分別精練レソーダ少量含むした水の水洗いし後清水で充分決う

①塩マンガン酸カリ 三分に硫酸マンガン 二分を加え た適な。治中に30一よのかで3の分別処理し次に至硫酸 液中を通して後水洗いする

②5.88の試料に対いして過酸化水素水の35%液40 はセポーメースス分のアンモニア水2は芳性リーダの28 ま遠じこの溶液の中に24時別浸父女水洗いする

③米100分に通マンがン酸カリー分に溶かしこか中に 50分で4時別浸漬する次に水50分に酸性亜硫酸リーダ 1分具が塩酸の25分の割合で洗いて、この中に40~50 分で4時向処理して能く水洗いする

(10) 結 栗

(二) 浸透剂の試験

U) 目 的 大島畑の新染は部分染色をAF)場合、染色が困難で染色斑 と生い易く又蒸蓋の染色を行う場合殊以練斑、洗滌斑の染 色法を行う場合に証果が生いやすいのでこの試験を行う

- (B) 試料(1)類の対分解したもの、茲藍染色(経緯終について) ①芝請の部分解したもの
 - の英術の以書学也した後次に北書学也した却分次外の蓝染のが試験(含茶色黄色等は落蓝染をする時に餘色の肉係で蓝色の守着色相が悪い)

③矫と総解して緑藍染色をしない却分(終150-200本)七本綿緑でくっつて染色する試験

四緒終の茶直染色

(c) 实施内容

(一) 単に温汤で糊枝さして楽色する客連の場合

[5]浸透剤セロミンS と加えた場合

に)浸透剤ニュウトマニツクス330を使った場合

四洗滌剤マプロカコンクで洗滌し浸透剤(c)を使用した

(五)洗滌剤マプロションクで浣滌し浸透剤(三)を使用した

ررن									
TO THE PERSON NAMED IN	熱湯	浅	消华	部	浸	参	수)	1.5°	
192	洗滌	16. 4	温な	時 50g	776.75	经太	[h.]	'	
	治から後	-		٠ -	-	-	-	海區色	
=	abc.	-	-	-	5.3%	验汤	三分分	4 =	
Ξ.,		,	٠, ،	-	0.3	温湯	20°	٠	
נהַן	-	0.5%	50-60	<u>ک</u> ه څخ	0,3	温多	20"	ζ.	
2	-	25%	50-60	20 %	0, 3	過湯	7,0 "	,	

緑色の場合は一は水洗いして染色する

(D) (th

緯結旦の錆は染色した結果四分の外頭としたのか成绩 は良好で、染色に殆心斑を生せず充分に浸透する練り 過ぎの場合は効果はうすいこれは紫色却に於いて大 量に試験を行う必要がある 高此の試験は他の浸透剂 洗滌剂について29年から於いても継続研究する

(初) 正蓝染色絲。摩擦坚牢在增進試験

(A) 图 约

<u>塵染の細は摩擦に弱く衣服に附着しやすい欠異かある</u> このため不人転もかっている。この摩擦坚牢名を増す 争ができれば将未藍染の紬はどしども売れると思い昨 革なに引続きこの試験も行か

中 结 (中

名教多当者也工場に於いて濃細に染めた経练

前与なはゼラチン等による周着剤の試験を行ったか今 キネは本土より 合成樹脂も取り入れて試験した エタナールP×99(周看例) レペロテツクス 115日(防水剂) シルコーレイ (柔軟剤) 以エミツも革独に又は適当に陝合して時用及心温を

|外理法をかえて25種の試験を行った||試験の結果良好な |ものは次のとおりである|

000 結果

黄試験の内緒果良好なものは

(4)経統。場合

の試料に対いしる%のエタナールPを200代の水の中に溶かしる之度で10分用43度で10分向处理して乾燥する。次に5%のエタナールPと1%のセロミン液に分之度で10分均43度で10分均が理して乾燥する。 ②エタナールPを5瀬で35次に10分42分で20分別

外現して乾燥する

日エクナールアル3%シャコーレイト%レベマテックスト5%を取って3の発電の水に落かし3のをで3の分較回線返しなから浸渍して次に3の分別4のかになりよう過去を調節しなから基温させて取型し軽く既水して50者で乾燥する

日 経験の場合はやいの国が適当である 尚この試験は少量の終についま行うたってあるが 大を的に試験を行う学 要からり又軽に対する影響をかれ研究を単する更も方がので次年本に継続して試験を行う

(1) 植物染料。研究

の、同一的 大島失識的の事場に遠く、季に減行に選択るのは止むと 行ないので独特の物を重要をする、華い更然常性崇料施 物が多く。これ等は主に課業や料に属し裸菜削によって 競な異った色を表すって、これを利用した独特の変徴物 生産を助表するため適さな植物染料を得て紫流の研究を なすため、この試験を行い

3) 計 料 素料値句としてシャリンバイ(テーチボ) モノタテバナ (アスチボ) モガシ(チンボ) 掲稿樹(ヤマモッ)エネスモクマ オ(補助)を使取す、 裸常剤として鉄塩(第一茶=化分物)クロ 一ム塩アルミニエタム塩鉛塩を使用する

(d) 該 輸 法 ・ 韓菜な料の染法によって知识すた今に娯楽な削に浸渍し を吸着ませる私を囲着生せて水洗いる延切染料にて染色 下台 素色級ソーピングを行いた分水洗いして乾燥する

回 結 果 この試験によって、極粉染料の中には合成染料に見るこ とのできない柔軟性と手触りを共元光澤と遊味のある色

が染まった 染色によってあらわれた色は次のとおりである

植物名。生果村	鉄塩	20-4塩	アルミニクム 盗	锡塩	媒条など
シヤ リンバイ(テーデオ)	黑茶也	桃东色	杨色	褐色	茶褐色
モッタチンごう (アクチネ)	0 Y.	1, <u>x</u>	桃芥色	桃褐色	5 <u>Y</u> .
モ が シー(チン末)	黑紫色	茶绿色	褐色	', Y.,	杨也
杨格樹 (エキス)	黑綠色	金茶色		杨色	4 K.
モリマオ (村)次)	黑褐色	茶褐色	桃褐色	机褐色	1 1

媒染処理しないもかは光導なくくすんでいる 尚テーナ本染色の場合に於ける黒色の鉄塩の作用は事一鉄塩であることが今つた。この試験によって染色した緑の坚牢な試験は29年なにおいて行う

(3)	华赖試験及心質疑病 答	-
(4)	グリヤリンの亜美効果について	2.34.
(a)	絶物中の織錐將集法について	1.54
· (+<)	紡績稱絲。鑑定依賴	1 3
(≈)	了一千年半色絲 3 鑑定旅校	1.3
はつ	蓝紫色絲の红火港について	ス件
(\sqrt)	藍染色緑の斑葉防止法 トラハ て	· 234.

- (4)
 - (1)
- その他 学級用係諸統計表作製 実験甲器具用係及薬品の数備 特在工業手工型部新設立案 都内別法二回 (চ)
 - (25)
 - (=)

機織に割する事項

(村) 無部)

桃 米場大島紬は日本八土しの分高に依って總ての面に隘路をま たし、従って日本アエの服装界の流行意正と遊紀の状態であ ったにも物らず八年间の空白の困難受状地下にあって業者の **然意ある努力に依って**戰前の約七分の一般なの生産の復兴上 日本復帰に伴って、尚一屬各般に亘る隘路打磨に業者は 察研究に専念している理状である。からる時に当って村織 部としては銭意日本尺土の流行意正と研究して早急に各種製 当の試験研究を行い業者をして今後の紬生産を誤らしめない 人種指導使励主致ナレ共に一面厂史的日本環帰の過度期に接し 考末の紬生産につ、て構想を新たにし現在の第一的生産と多 角型的生産に転向するよう各種デザインの試験、品质の改美 及びコスト切下げの試験研究を行うけ勿論、産地の特長立治 かしたネクタイ、卓掛座希国地の如き、新規織物の試験研究点 なん 業者の指導主行ってまた。

更に動後の空台から生じた大島幼生産技能者の不足正補う ため、役曹生の養成、短期研究生並、織物講習会主席催して理論実地両面に依り育成指导正ない、細生産後兴に支障のな

いようにした。

以上持織部に於て今年をの試験研究に付機略を示したべ多 種試験の事項は7記の通りである。 大島紬の研究目的

柄の配置と色道いの調査を関り色と地容大島紬の試作

地空黒地に一揆振の大 柄を緯線符入として経緯の本場修模 様に總統立化第二マエンデ 金茶、総二等以上が 棚模提艺 科型に配置した

引沙打巡察圣长 六四尺 =九0岁五三八本七0=本本得到新山山上五四 -文2分切-羽-寸 "新六八尺 +五笔半二本心本 ンセ六九尺

板と色合の調和は大体初期の目的を違したが縁線等の使用系 左本絣の系目付と同様のものを使用したためデーデ 木染色の 際、増量に依って製織する場合総打込みに無理を生じた。從 って今後總術は系自付を細目の系を使用することに係って製 ・微文容易にできるものと思われる ネクタイ地の試験

中年春向大島紬ネク外地正得るため

		(32)
•	方法 濃紺色を吹色とン組織は舒紋に輸具又はノットの を模様用一寸又は二寸毎に織り込み線絣で模様を	変り幸系 構成する
	三上二七元 設計 	绿线 4枚
. ر ق	結果 輸具又は1・ットのような要糕系正緯から使用して ため、変中年向ネクタイ地正復初期目的正達し 加工費節減試験	製紙した
ω _Ž .	目的ファゲニ伝ママー般大家向大島紬の試験を上指導集励する	S ,
	の活 緑の種類は冬季四種として普通網供をテーテ本等 金茶又は總エンデ色に仕上げ鮮の合せ方法に係り 柄に構成し鮮の仕上加工は普通の簡単な張仕上立 網次容易に出まるようにし、而も半地空のあ合い	行小装
	計計 一個人工學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學	目付
	競米 大柄等の加工の半分で済み、而も小中柄であるた 空良く、加工製銀に要するコスト別でけが名素、 的た湾レ一般向製品としては良好なる結果を得た	大 製紙能 初期の目
4)	石が早掛地及高掛大の武妖目的年掛地及高掛地思掛地を得るため	
	方法 ニナ四本分半末数のドビー線を使用し黄緑の格子 特を配列し組織は平及調目歌に小坂正定し、引起 ツタンで書打込みと、影談した。一层では易共3尺	(A) 11 (1) (1)

ツタンで多行込みし、影然した。一なさは房头3×57×3×57
1-仕上げり房結びは三段結びにした。
設計
② かり込 打込 整圣岩地学及町器 使用級目付 組織 仕掛 通法拠 ステルナー羽三本 ノナ スケア スタル本 本絹糸 調田銀24村 産通 記 13年割 - 明丰越 150本 25尺 1.188本 新地界89年子銀 10装置 側面本



(33)

結果新と紋の釣合よく而も章浮紋に依って斜む浮き立た七卓掛地並に窓掛地としては凡を初期目的を達した

(5) 经销制器器製作試験

目的 製織後の経料調教(針で製織したが盾と調製すること)の簡易を図る存

方法 程持のような坚い村木主使用して凸凹の板片主作り其の接続する内側の面に薄くゴム張りし系主鉄んた時、ずれない标にした。次に凸凹に製銀式経済主図棄並に両耳の基準系に持えて鉄み製造し斜調製器と緑徳と接近し織り込み困難になるる、 たこと終り返しつ、製銀するようにした 結果

後来の斜の調整に於えば納手が三寸又は四寸程な無少上げた 後針で斜のでしまを革命していたが、新調整器主使うことに より三尺位の長さは調製をする手間が簡単で清み経済のでし 次目立つもののみ其の都な針で整える程名で地で式の棚模が 等の緊急等を上げた。

一前銅鐵整器に経納を図書の通り引放えるのに熱線を窓するかえに思する手向け製銀商で補うことができ後来の方法よりにこめの一般上の製銀能率をあけることができると思われる。確な今後此の方法に付成調整器の整式等を更に考察試作し、製紙の能率の向上を図るい

(6) 建公司易活对效

地型模様の落斜及終斜の緑込みの能率を図るため

最初では新に然中の墨付け標示を行い縁込みの時は三種の模様の要する場めら期をを引き込み此の二種の模様の中間に耳ら出るまで記るといるは明系を耳を斯まい合しるころはころはの話があるようになり前を結め続めるかったとはつまみ上げ式の方法で模様を放りに三種に必要な縁がス系を引き込み目印の瓦斯からせる紙を入りまるといるようにとる。

此の方法に於るは縁上の熟練を要するが図書と見て日斯系の 引き込みの基礎さえかれば容易にでき然も一田で緑餅は二種 の斜を帯状型に縁め込みれて経鮮の縁め方に於るは、つまみ上 げ(抜き取って)て、緑めたので接受している口紙正斯系を 切り寄すと客型になり一方向の棚模様の縛り込みに應用され

J.

る様になり面も能率が良く絲縞加工の時間が短縮された。尚縁絲は帯状型に締めらんるので染色な特延解加工に 於る良結果主得たので業者に此の方法主指等奖励した。

(ク) 教材用大島紬の試験

目的 展習生, 海霓生实習訓練用口通する色入大岛細心試験

簡單な長絲及十の字絲正以マ小中极正構成し色合は部分的に金茶、エンデ上斜に配置し生徒の実習に過するよう

343x

立声引打整美 影 经新数地系数 使用系 目 付	
15/NO 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
一尺面可开新次次高高多三八本七一二本本新新新八多行地将来发地六块宽高多三八本七一二本本新新地七五多分	1

福智生 研究生実習用としては割合板の構造から製紙が 容易で製品は大家の一遍心初期目的主達することが出来

(8) 總額物の研究

正蓝锦絣斜物の試験

の料は%、を使用し之を正盛的に許め上け鮮は亀甲型の小中板に経済は調製が容易に出来る長絣の一種として主に跨斜で以て亀甲板を構成する根にした。

密配	3/10/	打込一	整长	織上	量目	圣舒数	地系数	独脉	目付
1天5分	1羽/本	1寸90本	斜66尺	63R	360\$	96本	524本	學了	1291

総縁に怨る大い綿系王原科上原料として使用した点からず 引込み正一切一本とした唇絮緑中、地合は蒲川原次方ったが緑り上げ後仕上げを行ったので地見干船り若いるでた。 経路の京抜調製む紬の場合の根片容易でなっただ、大体二十又は三十程をは調製り能で然と生徒の併る也実習用としてと効果があった。 規格外原料系に依る妥託試験

目的 業者の要託に依り規格外太系利用法に依る各種大場的の製造 試験 方法 経緯系正正蓝学として苦労で短冊模様の一金に構成し製紙 能率を計る

尚厚料系の太さは一級でナニカ乃至委三分の太系正使用

設計

宪数3	处打论	聖経	减上	量目	絕特敦	地系統	使朋	目付
17.5分 1	羽1寸本90季	1968R	EUR	3.04	137 क	903本	たっぱん	ノンカー13カ

紫緑面には相当能率正上け然心柄分としては一般向に適力 名主品正程左外太白の京王使った関係で地見が思いよう分 昼灰した

事業計でナ三等の割込式一登の地話り柄模様として染色は 正変要として模様の中的にかさく化業のスク込み業方法 で全条の色合品在上海

经动

ワ

强新 那些打到	野送 铁二岁时	经贷款地外数使用利	月付
1人な分139 1キ 13年 2本90本	768K 14 R 3059	经本地产以完	129~139

機務外の大二条である店工蓮書とした性師的在衛業で帰め

込まれた特上特の南水等的ける東ノ間り上げた場合師構物のような感じを受けるい信号が経られなかった では対するがあいたからかける引持る本教主多くした為で をきの陰にないくる漫演が名分でながったらのではの点当意 专业公的被告水得了花石

経はテーナ大势影や圣系に薄い茶色の一筋縞を三羽置きに 配列ン海特は芸術とよの学様の二種でダブコ式の小板と

· 及"闭心扣心[整轮射新工]老目 | 結數 多数| 使用 第 目 1月2本1490本68尺 13.5尺270岁160新在6金太二人多/2分~3分

结果 経の茶の縞に素料正合し柄工構成しつ、製紙するので経動の系板調製が省内一里を持入のような概念いに見受けられ 小板の製品としては良い結果正復、然し工費ルを35%の切り下げが出また。色入大島紬の試験 (עווי) 目斂 梅合と配色に依る中午向色大見紬の試験 蓮到式の縁斜模林の経緯紛をエンン食茶本場の三色も一模 程を配色し地を見の大板とした 設計 需放 引込打込第2長網上量目 经纷数地条数使用烈目 付 185分一月 1寸 斜台界 65尺 Z65岁 1Z6本 1.114本本锡系 一班 201 結果 色と核合の調和が良く初期の目は正達した。尚此の種の板 は書地に締み編式に割り込まれる配置されている関係上、 手をからしると制限を要けず中年以上の看天地としての生 品を得る。 但少地学板模形である屋製鋼の際、各种の部分本筋も引 くおされからったが之まなくするよう最初で地名京走新と 同ない板に巻き込み新調成器主使用しを多、此の欠点を補 2.事交出来后 急加団やの武蔵 (11) 新規熱助生産正目標に広幅左布国地の武作研究 茂市一尺六寸一元献式の大棚を模がま中内。配置し新は光整紫として蓝色の柳に仕上げる

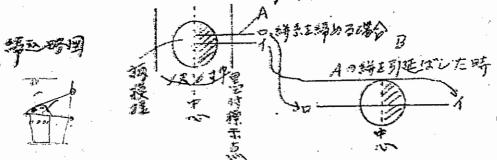
1天子寸 -羽 /寸/四本絲紅尺座布園15年草割二本子至) 地级尺十四分理

右の設計に依り現在加工中にして係中が一尺六寸の広中で、 ある国際に、従来使用の高校では然中其他就在2年1点から 製練困難なな。引起用、右中バッタン立以は製鋼を設定計算、計画、 中で紙柱及バッタンの製作主に製紙試験主行うラミである。 ウベヤジラスを実践の読め込みにおて音通説の一尺五、

| 八二 | 量目经時數地系数例系目付

602本 1558 地京の斜泊村

写成中で一天六寸に安するが終れることままで 一天六寸に安するが終れることままで 一天六寸に安するが終れる。 即ち翻発と見め、黒付標準を行い、緑用紙に模様の半量と 付続用互動系で以る面し最初書付標準を行うたけを一生復しるの の方に合して緑か込み互動系を通した状かを一生復しる。 のることに個人一模様一種類の言詩文できることになる



次に各特の野心心徒もの同一模様の足数も多くして加工していたのな知工を数を少くして締める様なす活し考案

それは布悟的に一種類の経済の対要筋数が四筋大は安となるとこと的足分か一所に筋数と抗さて帰込みしています。 たなるとこと的足分か一所に筋数と抗さて帰込みしていまな、四筋を懸る加工して胸でどの長く引張り乾燥し続めるみの作業で移す

(12) 各種試験 小、地名家の棚付試験

A 目的 従来の地を京の糊付は布海苔に種子油を少量用いていた が、これを改良するため本試験を行う。

B 方法 お電の百分の八 メリケン粉の百分の一、

種子政系量の西タに付きZecc、水系量の几色五倍量

最初布海苔を水に浸した後指拌しつ、煮沸する、次にメリケン粉を到の容器中でよくこねて、溶解レギ透明になる程序に煮る。

布海苔、メリケン粉を一つの容器に移しく約の無い が完分塩した後種子油を入れ、一様に撹拌して再分煮 る、地学をよれ窓を翻滚の冷えない外に糊什を行い、 一様に干級リレス整様する

転換に当っては答案が差分覧とまで字当り正要之系 筋を伸ばしつを叩いて乾かす。 はの時子乾さになれば 地を素は総系が捻り易いので之となくする疾 一級免 窓倉系筋を伸ばしつと叩き乍ら乾燥する。

C. 結果 役業の地を京の期付法と違っマメリケン給は混入する と同味に種子油工を目に注加することにより、系鉄リ 整益、加工が容易にでき、而らまた光沢工生ご製品の 手触り地見共い京好な結果主貨店、それで此の方法主 業者と指導奨励した

只、舒桑用互動系の糊作け試験

 \mathcal{B}_{\cdot}

月的時期日期京の府東五良くし、且遊解さの際に於ける 緑り込まれた五期京のほぐれ正良くする存に本試験上 行う

大体地を象の糊付けと消尽同じであるが緑用互動系の 学り王良くと鉄線込みの時の最切れを防止すると共に テーナ本染色後新解さの際互斯系のほぐれ工門滑にする 多多種子油を他を糸糊付の場合より系百句に対し種子 油子CC乃至40ccを用いる。

一部等の振な鮮解さの難からいものでも此の方法によって容易にでき、然も気切れの防止も同性にでき初期 しの弱り表好な結果が得られた。 八白湖の部分に北岸の汚牙防止試験

国的 泥染餅に部分的に化染着色した色が経鮮の仕上間及する場合に於ける珍染するのを防止するなに本試験を行う。

京清 経済一種類宛湖付いた後は上湖城台上に張り仕上加工を行い、 向しう一つは桐模様に於て化染される鮮の部分が多く、 本場餅(白餅)の部分がかい場合は既に化染の場合に水港されているので本場餅の部分の絣解さなした後此の所を水港することなく糊付仕上を行る。

(3) 新稀込合於ける互射系の引込筋数並期の量及群の一束の筋数 1二級の関係試験

す法、結果到表の通りである

								(40)
	AA	-	B	产生	C 方	÷	D	方法
3	自得係3之前は	経してお用語のエレノ	本には緑糸		白游絲16筋主	差径に糊器加	エレノ本には無	车辆
菜項到	絲綿用亞斯主	(羽に引き)レルモッ	的数		絲綿用瓦斯系書	1羽に引込んだ	前数	
導	13918前至到2		1到4前至引到到	大蒜的产品 一	1791-8前至到20	水源的产油	1771-47/083	公子为此后等
别!	糊染加工の時	の布海湾の割	. Te	周.	左	闷	左	同
	10 %	3 %	10 %	3 %	10%	3 %	10%	3%
方本は締		取投:酸:	取扱の容易で	形模固難	取极"家"	取扱いたいり	取扱い場く固く	事极"办"母嶷
通過多音	国く語いられる	錦却なたくない	国く締められる	物次悪い	国は悪められる	やわらかくおうかられる	緑められる	で取るのはなめる
安里教		397/2/2						ひじくきゅうまるに
以 · 医 · · · · · · · · · · · · · · · · ·	術の部分には染まう		供の部分:表面だりできます。	紛り部分にっ程を	等の部分に浸透し		持一港面に浸透	添添す3
1000	伊を地系の部分の中	左局	黒地の中国層の来	这一浸透了3 黑他刀中内唇の染付	黒地はおまりついる	浸透する	またのがかけよく	浸透する
少部芬辈	伊ン地系の部分の中 例外染付無い		着とが悪い	たわるい	·· 3.	黑地水左同	楽まる	2"
通方	舒和部分-漫漫	鲜力到分/二六3	浸透す3平	72.77		-	料の表面に認考し	緑の表面より積す
	671	起放漫事才多		左同	浸透しない	稍、浸透する。	色流んするだれ	南部 "浸渍力
透光	2.4.6	20072713	グ多り	7.	, ,	176.17	次ある。	恐私为多
クタイ	·							
班及任务	解锡尔双坎	解告易口衣取投	<i>解</i> 到易く	取投"仁"	稍、取被難、	取扱い困難	群、承报"上("	死极 菱红
易兴荣解	容易である。	1	取投处容易である	1	多なかれのでれない	多切れなるい	ませかれのしめこ	新解さる場ではい うかれする事が多い
の流き		15 (1),	4212121212 631 G	1975%	53.		かある,	でわれてるある。
34		<u> </u>		<u> </u>				
1 3 模質	解場。	解3易"	解竭。	解る易い	解さんべい	歌がく	解き難い	軟らかく。
となる	177 - 10	177 200	117 -119			解さたくい		解之難以
1						777		117 - **
1		1	,		ı			;
	1 440 12 . 0	Land Cold Cold	A		2 = 2 × 2 ×	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	T- x1 . F2 12 - 4	
	人們電母多	"程、紛系の結门	かなよく ダモッス	業色といるので、	17 377 27210 16	1:45 X	かないなめぐん	能中心人!
	ス特婦用豆物	系引込みは、1	羽にか筋又はん	筋形を変か続めた	鮮の調り方灰度	く結解きの作業	交容易 二名来名	3.
枯				,	,			i
	3.鮮の気筋は	細い発其の斜交	明瞭にだる必然	こ細い鮮の欠点	は餅解き並ん部	分解さの際、糸	かん正生じる。	と、然し此の
,	1 場合を分離	解さ作業の勝注	むひと 鎌癬きま	すれば、此のア	公主併止するこ	となできる。	/ AのAD教でする	整色のはの
	引摘之筋数	口柄摸接1.很力	マー定しないけ	れち、1人的へる	4 肠近灰紛緩物	の符条王活かす	結果となる。	
,		•						,
		٠.	,					•
THE .	1		•				•	
木	1	•						
,			* * *		,			
		·						

3) 依智生の養成及研究生の指導 当地納業者は理論的知識に近しく技術の進歩は遅れらして進 すず、又認定の役割技術者は充年の若双多いので理論を具備 する青年技術者正復んなため、依智生及が研究生に対し配論 並に実技指導に努めた。 今年度伝習生修了潜及研究生修復者は次の通り

依智生修了春

氏 名	不 籍 地	3号7度の花業状況	備君
平山新隆	竜郷村秋名/2/ク	自俊	
鬼 靜溫	笠利な 和門	//	
汝田曾己	最級技术是太/父人	田中工場	
山名平三	名遊和伊建部人四月	自 包	·
有田和子	三方杜浦上	4	
•			

研究生修得者(短期六4月)人員女子十三名

) 製鋼技能者養式請習会の同催 理在の大島組役業技能者は実技に称るは或る程至上達の域に に及るが、全般に対する理論的知識に至いく然も従業者の約 たのがからないないまであり今後の細生産に及びする物 に鑑みらからないは細細合と置る文程度の下に理を正してる 名の寿年女子に理論実技両面より編に当かた終えまで 後得させ、治現在年五四日五十名と当かた於る大島細に寄する処大なるものがあると信する。 後す者が大島紬に寄する処大なるものがあると信する。 後って今後、業者の要望に答るて其の都会技能者を否成 るよう計画中であるが、今年を養成人員は次の通りである。

小人曼 586

(ロ)期間 自昭和28年6月/日 至昭和28年11月30日) り持续に関する英の他の事項 (リ 李記のエ

業者メリ多種加工、主として特部分解加工の要託作業に広い業者の便宜を図ること、した、その件数は次の通り 新部分解加工 68件

ツ 於線に関する質疑応答 ・ 於線に関い大島紬の加工、絲緑シン 設計見積其の他整紀等 に付業者との質疑応答は

(A)解釋込に対する質疑応答 1ク件 (B)糊件に関する質疑応答 110

(42) 图等。依多設計見讀少指導並上質疑為各 (D) 緑枝其他器具に対する質疑恋答 (E) ネクタイ製作に関する質疑恋答 (F) 緑付に関する指导並質疑恋答 (f) 其の地學編加工に対する复数恋答 (D) 南天の際の芸局作業場がないたり業者が雨天の時は冬

一時の工が出来が困るので当所海高下正使用させているが主上して自然系の都強、 全様が仕上加工 経経の色 ショの作業学や出来得るだけ業者の利便を困るように しているので利用者も多く業者に大麦喜ばなるいる。

其內件數 120件 於銀額考閱人 1639名

- (1) 当部:於マは本年及上於マ撚系検査用器具だ械の整備及意匠 松緑枝の設備まなし、原料松系についての調を研究 変り旅 緑の試験研究、常者の撚系に関する指導及質疑応答其の地伝 智生に対する振等等を行り、原料面より大良知の品質改憲に 努める地 細組合の燃系精練工場設置計画に関し、之外企画 むなしたが、之学を業務については左記の通りである。
- 四 燃系検室用器械の整備 野女皇編しておった。検査用湯械器具其の地諸備的は戦災に体リニく環滅改したので終戦以来共の設備の後共に努力してまたが当く本等なに至って各種計量器其の他、諸備的は勿論 維返於及動力検尺於、意正然系於が据付、依尊裝置とも完備 するに至った。
- (3) 原料概系の調を研究 格人とが生まであるが、 エネも少量でら使用されている現状 でた記の通りである。
 - 人がり、クタ、ストタ、よめ、ようか、より、より、タタ 練班、終班、題節、毛羽立多く其の他舗な不揃い水 港不克分のものもあって其のため染色、緑物設計、 製舗及加工に支障正来すこともある。 か 目付
 - (1) 条高の状况

市内に八軒も周后しているが一月の平均取扱をが約 650量にレス染地系の販売を行っている処しあって、此の種高店は特末地える傾向がある。

(=) 原料系性入笼

大阪、名古尾、鹿児島、宮崎、熊太 東京 (4) 変燃系の試験研究

級物界の時代的要求と合理的特業運営の点から変燃系応用新 規想物の生産助長に父母な然系の試験研究主行った

夏原料による調物を試験すべく3%及3%の経緯甘燃絲(り)原料無系に関する一般指導及質疑応答 現在對前のような燃系規格及燃系取締規定等の保護政策がな

く又從来燃系加工七当地納組合の燃系物練工場の一ヶかであった関係上、時戸業者への指導助言をする程及であったが、 復帰後系南が続圧増加する傾向にあるので勢い原料系の品質

にも多様を極めるようになった。斯かることは将来大島 於マは撚系販売業者を迎回し、又は村会方る毎に細業者の原料系に関する指導をないた 充血燃系についるの質疑恋祭 10 年 松系なたついての 稀練についての 目付不明松系の量目校直 紙物鐵维についての鑑定 (6) 伝習生に対する指導 原料然系に関し理論的智識と取扱いについての指導を公 然系持練工場設置の企馬 國庫補助による無經数六百年の然系工場及附属精練工場 施設の設計をなし、其の地子等を見積り計上して細組合

に提供した